

東京バッハ合唱団 月報

[第 684 号] 2019 年 6 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 684

June 2019

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

3 年後(2022 年)は、合唱団創立 60 周年 記念公演のカウンタータ演目を公募します

大村 恵美子 (主宰者)

今年の創立記念日は 57 周年にあたりますから、「60 周年」といえば 3 年も先のことですが、もうすでに 59 周年、すなわち 2021 年までの公演予定が決まっているので、ぼちぼち話題となってもいい頃ではあるのです。これまでの歩みを 10 年ごとに振り返ってみます：

- ・ 創立 10 周年：カウンタータ BWV 29、BWV 8、BWV 79
(杉並公会堂、1972. 10. 21)
- ・ 創立 20 周年：《マタイ受難曲》BWV 244
(新宿文化センター、1982. 4. 17)
- ・ 創立 30 周年：《ヨハネ受難曲》BWV 245
(新宿文化センター、1992. 4. 18)
- ・ 創立 40 周年：《ロ短調ミサ曲》BWV 232 (原語)
(石橋メモリアルホール、2002. 5. 12)
- ・ 創立 50 周年：《ロ短調ミサ曲》BWV 232 (日本語)
(杉並公会堂、2011. 11. 23)

まず創立 10 周年には、既演曲が 2 曲 (BWV 8、79)、初演曲が 1 曲 (BWV 29) で、最近のステージでは、カウンタータならほとんど 4 曲になっていますが、このときは 3 曲ながら比較的大きな内容で、BWV 8 《み神よわが死はいつ》は、後半が、ホルンを含めた管楽器の華々しい効果となるもの、BWV 29 《み神に謝しまつらん》は、トランペット 3 本とティンパニを伴って、感謝をおごそかに歌い、ここには《ロ短調ミサ曲》の原曲も含まれる。BWV 79 《神は わが光 盾》は、つい先日の公演でも取りあげたとおり、祝祭的な規模の作品でした。その後、20 周年の《マタイ》と 30 周年の《ヨハネ》の 2 つの受難曲がつづいたあと、《ロ短調ミサ曲》が、原語上演 (40 周年) と日本語上演 (50 周年) とで、連続してとりあげられました。

想像することも出来なかった、半世紀存続を果たしてしまっただけでは、どのような祝い方がふさわしいのでしょうか。創立 50 周年のときには大変な意気込みで、1 回だけでなく、記念年 (2012 年) を挟んで



■ 第 118 回定期演奏会、開かる

2019 年 5 月 18 日、府中の森芸術劇場ウィーンホール (写真提供：パラビジョン・竹内恵氏)。月報 p3, 4 にご来場者アンケート回答を掲載しました。ご覧ください。

3 かにわたり、5 回の定期をあてて《ロ短調ミサ曲》、《クリスマス・オラトリオ》前半 3 部、後半 3 部、《マタイ受難曲》、《ヨハネ受難曲》の 4 大作品を連続演奏したのです。

さて、その後は、たったひとりで指揮を続けてきた私も、お祝いの日となると、1 曲でステージに立ち続ける大曲演奏が終わったあとには、大勢の喜びあうお客や仲間にも囲まれる祝宴があり、気力は残っていても体力がもたない、という現象に悩まされることになりました。それゆえ、この合唱団の出発点に戻って、カウンタータ 4 曲を定期演奏の基本形とすることにしたいと思ったのです。カウンタータ 1 曲ごとにステージ舞台袖の往復をくり返すだけで、一息つけるのです。

創立 60 周年にも、主としてそのような原因で、大曲は避けて、内容としては、主宰者・指揮者である私の年齢からして、こんなに長い年月続けてきたのだから、もしそのステージを託されるなら、「復活」(=還暦) ということではないか。すなわち、バッハがイースター (復活祭) のために作ったカウンタータを主体とするプログラムにしてはどうか、と思いつきました (因みに、その年のイースターは 4 月中旬です)。

たちまち数曲が浮かびあがりましたが、今回は、半世紀以上にわたって、この合唱団を愛してくださっているご愛好のみなさまの意向もうかがって、公募して

月報 6 月号 CONTENTS

- ・ 今後の公演計画 2019-2021 暫定案 (事務局) …… p 2
- ・ 第 118 回定期演奏会 ご来場者アンケート …… p 3
- ・ 感動につぐ感動!! また感動!! (嶋田秀雄) …… p 4

みたいと思います。期限は固定せず、なるべく今から、早く多くの方々からアイデアをいただいて、その開催ホールの抽選に間に合えるようにしたいものです。

参考までに申しますと、昨 2018 年 4 月 8 日（復活祭後第 1 日曜日）、目白聖公会創立 100 周年記念のためにお招きを受けて演奏したのは、以下のカンタータ 3 曲でした。間際近くにお話を受け、合唱とオルガンに 2, 3 の楽器が加わっただけの小さな編成による抜粋の上演でしたが、派手ではなかったけれど、しみじみとした味わいの持ったコンサートと、お褒めをいただいたものです（会場は目白聖公会シプリアン聖堂）。

- 1) BWV 42 《同じ安息日の夕べ》(第 2, 3, 7 曲)
- 2) BWV 4 《キリスト 死に繋がれしが》全曲
- 3) BWV 31 《天は笑い 地はどよめく》(第 8, 9 曲)

2022 年の当合唱団定演の場合は、大規模な音楽とは限りませんが、ホールも都心に近い、大きい所になる予定なので、相応に大規模な楽器編成が必要になることでしょう。極端に減ってしまった、若年層の団員を今後迎えるためにも、ぜひアピールできるような案を、数多くの当合唱団関係者、サポーターの皆様のお知恵が届くのを、心よりお待ちしております。

今後の公演計画 2019 - 2021

暫定案 (2018/12/15、月例相談会)

過日の第 118 回定期演奏会ご来聴の皆様からも、多くの賞賛をお寄せいただいたとおり、東京カンタータ室内管弦楽団の方々の、安定・充実のアンサンブルはさらにつやと深みとを増しています。しかし、月報紙面でなんどもお伝えしているように、団員数の減少による財政上の都合で、当面は、ソリスト、フルオーケストラとの共演は、年 1 回の定期演奏会の機会のみとなっています。団員数が戻り、理想的なサイクルでの公演計画が立てられるように、団をあげて工夫しておりますので、変わらぬご声援をよろしくお願いします。

さて、昨年 8 月に、誕生間もない演奏愛好家団体コレギウム・アルモニア・スペリオール・ジャパン(略称 ARS)の椿高明氏(後援会員)より、「マタイ受難曲」協演のお申し出がありました。このときは、今後は大曲を離れてカンタータ作品の上演を充実させたい、とする主宰者の意向により実現を見ませんでした。代表の椿氏(ご本人はオーボエ奏者)の、バッハ音楽への熱い想いと、当合唱団の活動に寄せてくださる敬意に動かされて、今後の共催・協演の可能性を大いに感じさせられたものでした。その協働作業のチャンスが早くも到来します。今夏 8 月の小布施/野尻湖コンサートツアーへのメンバーの参加と、12 月のクリスマス教会コンサートでの協演です。

以下は、60 周年を迎えるまでの暫定の計画です。

2019 年

●小布施公演 [客演]

(8 月 1 日、小布施ミュージアム、14:00 開演)

●野尻湖公演 [主催]

(8 月 3 日、野尻湖神山教会、15:00 開演)

曲目:カンタータ BWV109、BWV166、BWV188、BWV 79 より各抜粋(曲名は、次ページ囲み「終了報告・第 118 回定期演奏会」参照)。

演奏:鏡貴之(テノール)、田尻明葉(ピアノ)、管弦楽、ARS(*)メンバー(Ob2、Vn、Va、VC)

*)コレギウム・アルモニア・スペリオール・ジャパン Collegium Armonia Superiore Japan(略称 ARS)

●日本エキュメニカル協会「講演と音楽の集い」[客演]

(11 月 4 日、東京カテドラル関口教会、14:00 から・詳細後報)

曲目:合唱〈主を頌めまつれ〉BWV28-2、モテット《恐るな われなれと共にあり》BWV228、聖歌カノン〈Dona nobis Pacem 平和をわれらに〉

演奏:田尻明葉(オルガン)

●クリスマス拡大教会コンサート(2部公演)[主催]

「時満ちて 人の子 生まれぬ」(12 月 14 日、[A] 荻窪教会 14:00 開演、[B] 三崎町教会 18:30 開演)

曲目:カンタータ《主の愛を讃えよ なれら》BWV167(*)、《クリスマス・オラトリオ》BWV248 後半より

演奏:光野孝子(ソプラノ)、鳥海寮(テノール)、ARS メンバーによる特別編成オーケストラ(管弦楽)、新妻由加(オルガン)。*)BWV 番号に下線:新規発行楽譜

2020 年

●特別演奏会 [公演形態・会場未定](2020 年前半)

曲目:カンタータ 4 曲:《イエス 高き宝》BWV113、《ただ主に依り頼み》BWV93、《イエス わが心を》BWV78、《待ち望みたる喜びの光》BWV184

(選曲の趣旨など、月報先月号に紹介-小海稿・大村稿)

●第 119 回定期演奏会(12 月頃、杉並公会堂大ホール 予定、14:00 開演)

曲目:《クリスマス・オラトリオ》BWV248 前半(第 1 部~第 3 部)フル編成による全曲演奏、カンタータ《喜び 笑い あふれ》BWV110(後半では BWV190 予定)独唱者未定、東京カンタータ室内管弦楽団(管弦楽)

2021 年

●第 120 回定期演奏会(前半、会場未定)

曲目:カンタータ 4 曲:BWV158、87、94、115 予定 独唱者未定、東京カンタータ室内管弦楽団(管弦楽)

●特別演奏会 [公演形態・会場未定](2021 年後半)

曲目:カンタータ 4 曲:BWV70、199、179、116 予定 独唱者未定、管弦楽:ARS を予定

2022 年<創立 60 周年>

祝祭的な曲目(公募。当月報巻頭稿をご参照ください)



■開演前のリハーサル風景（撮影：千葉光雄・団員）

第118回定期演奏会 ご来場者アンケート回答

■演奏全般について、ご意見をお聞かせください：

- ・バランスがとても良く、歌詞を味わうことができました。ソプラノの響きが天使のようでした。
- ・音も唱も、とてもバランス良く感じました。心地よかったです。
- ・すばらしかったです。
- ・コラールが良かったです。
- ・素晴らしい演奏会で熱気が伝わってきました。心洗われ、また聴かせていただきたいです。
- ・初めてで新鮮でした。ありがとうございました。
- ・バッハとうかがい、重いかしらと考えていましたが、その様なことはなく、とても楽しめました。
- ・とてもよかったです。
- ・やはりバッハは良い、と感じた。人気曲以外のこうしたカンタータ等に、バッハの真髄を感じる。様々な曲を紹介して下さい、ありがとうございます。大村先生、くれぐれもお体をお大事に、これからもご活躍下さい。
- ・オーケストラ、アルトが出色。合唱は、バスがよく聞こえた。
- ・良かった。
- ・礼拝、ミサを捧げているような思いになり、素晴らしい演奏、ありがとうございます。
- ・東京カンタータ室内管弦楽団の演奏に心いやされました。特に管楽器の響きは素晴らしかったです。188番のオルガン、弦楽器、素晴らしい演奏でした。歌声は天からの響きでした。
- ・ソリスト（ソプラノは秀でていた）、コーラス、ストリングス、管楽器、全体にまとまっていた。コンダクターが元気で何よりでした。
- ・素晴らしい!!
- ・ソリスト全員すばらしく、コーラス、器楽が大変すばらしくて、楽しめました。
- ・初めて聴いて 良かった。

・すばらしかった。感動的です。コラールすばらしい。ソロ・合唱すべて高い完成度です。一つの心になっていた。

・合唱・ソリスト・管弦楽団・オルガン、全てが大村氏の元一心を一つにして完成を目指されたのが感じられ、素晴らしい演奏で心が洗われました。

- ・素敵でした！
- ・すばらしいです。大村先生に大エールを！
- ・なかなか聴くことのない種類の演奏会に来てよかったです。
- ・親しみがもてます。
- ・年々静けさと深みが増した演奏に、感動。
- ・素晴らしいです！特に終曲で盛り上がりました。
- ・良かった。
- ・地味なカンタータのみだが、本格的な演奏で、納得がいった。
- ・初めて聴く曲です。難しい曲をととてもすばらしく歌い上げられたと思います。
- ・素晴らしかったです。

■とくに、日本語演奏について：

- ・テレビでオペラ歌手が日本語で歌っているのを聴くと、日本語がわかりにくいことがよくありますが、こちらのソリストの方々はわかりやすく、かつ美しく歌い上げていらして素晴らしいと思います。もちろん合唱もそうです。
- ・バッハを日本語で聴くこと自体初めてです。とてもフレッシュに思いました。もっと言葉そのものも、重々しくて良いのではないかと思います。私見ですが。
- ・他では聴けないので、貴重です。
- ・意味がわかりやすく、入りやすかった。
- ・日本語で聞き、目で詞を追うと、とても言葉が入ってきて分かりやすかったと思います。
- ・新たなソリストの皆さんも、発音が分かりやすく、

終了報告

第118回定期演奏会

日時：5月18日（土）、午後2時開演
会場：府中の森芸術劇場ウィーンホール
曲目：バッハ・カンタータ日本語演奏

- ・BWV109 《われは信ず わが主よ 援けたまえ》
- ・BWV166 《いずこへ 主よ行きたもう》
- ・BWV188 《わが堅き望み》
- ・BWV79 《神は わが光 盾》

演奏：

光野孝子（ソプラノ）、谷地畠晶子（アルト）
鏡 貴之（テノール）、小藤洋平（バス）
東京カンタータ室内管弦楽団（オーケストラ）
新妻由加（オルガン）
東京バッハ合唱団（合唱）
大村恵美子（指揮/訳詞）

心地よかった。鏡さんの安定感、光野さんの澄んだ声も、また聴けて嬉しく思います。いつもこのオーケストラは印象に残る。オルガンの演奏、特にシンフォニアの部分が良かった。合唱団の人数が少なくなっているように見えた。その割には、男声に迫力があり、のびのびと歌っているようで良かった。

- ・日本語演奏ではあっても、歌詞が明瞭に聞こえない。
- ・判りやすい。
- ・バッハが身近に感じました。天からの演奏・歌声でした!! 感謝!!

・日本語は初めて聴いた。何を言っているのか、判りにくい（もちろん当方は独語、ラテン語も苦手だが）

・合唱の日本語がはっきり聞こえなかった。ソリストはとてもきれいな日本語だった。

・良い、やはり内容を理解して聞きたい。パイプオルガンがすばらしい。

・良く聞こえました。若い世代には、もう少しわかり易い文語の方が良いのでは。私（60代）が楽しめる最後の世代では？ 本日の演奏、充実していました。今回、ソロで、日本語であることの効果を強く感じました。これまでドイツ語でよくわからなかった。すばらしい。

・内容が直に伝わって、判りやすく、違和感のない訳で、大変良いと思います。

- ・新鮮でした。
- ・やはり、いいですね、よく分かります。
- ・原語では難しいことも、おおよそ内容がわかって良い。

・BWV166/5 アルトアリア、「lacht」に対するメリスマに、日本語「ほほえまん」の「ま」を当てるのは不自然。「ま」を強調する日本語の使い方はないと思う。

・とてもわかりやすい。でも、現代日本語での演奏も聴いてみたいと感じました。

・意味が良く分かりました。最後に一緒に歌わせて頂きまして感動しました。

・日本語なのかどうか、聞いてる方には全くわかりません。

・日本語演奏は意味が分かり、良いです。ぜひ続けてください。

・歌の意味を理解するのに良いこと。主の教えが広がりますように。

・分かりやすくてよい。

■その他、本日の運営全般、会場等について、何でも：

・ふらりと立ち寄ったら、とても素晴らしいプログラムに出会いました。ありがとうございます。Thanks for All!!

- ・良い響きのホールだと思います。
- ・この会場は、大きさがちょうど良いと思う。落ち着いた感じで良い。
- ・ホールの音響が素晴らしい。
- ・ポスター少ないので、もっと貼ってください。



■主宰/指揮/訳詞の大村恵美子氏とアルト独唱の谷地歎晶子氏（写真提供：パラビジョン・竹内恵氏）

- ・音響良く、本日の演奏にピッタリの会場でした。
- ・府中は自宅より近いこと。土曜の昼間はとても良い（日曜日は教会礼拝生活のためにゆかれたい。年齢を重ねると夜はムリ）
- ・少々遠いですね。会場は申し分ないです。
- ・最後に全員で歌ったのがよかったです。
- ・ファン層が老いてきて、府中までたどり着けない仲間が増えています。残念です。何か善処策ありませんか。
- ・スムーズに開催されてよかったですと思います。いつもお世話になります。ありがとうございます。
- ・新聞・TV等に取りあげられる様になって欲しいものです。
- ・楽譜付き、訳詞付きでよく分かり、合唱のアンコールが良かったです。参加した感じになりました。

嶋田 秀雄 様 / 多恵子 様

感動につぐ感動!! また感動!!

夫婦共に、カンタータの音曲とともに、「詩」の中味に心を激しく揺さぶられました。

今回の演奏は、今の私達の心境に、出だしからピッタリでした。家内がそう発言し、私達は顔を見合わせて頷き合ったのです。からだと心の痛みと疲れとが、主のみ手によって、少しずつ癒され、励まされてきた七十路を越え、八十路に向かう私達にとって、実に至福のひとつでした。

各々の楽器の演奏と弦合奏すべての素晴らしい音色に、私達は浸ることができました。ソリストとして立っておられるお一人お一人のレチタティーヴォもアリアも、楽曲の詩とともに、その澄んだ美しさの全てに、今回は圧倒されました。最後にとっておきのコーラル。本当に力強い!! ハーモニーが素晴らしい!! 「詩」が素敵でした。会衆みんなでの合唱、本気でうたいました。「主の十字架により 良き終り たまえ」。心から感謝します。

.....

[団員・松尾茂春氏宛てのハガキより、ご本人の承諾を得て、抜粋・掲載させていただきました]